

2025年(R7年)

3月

No. 392

ひと は 福 社 会
HITOHATSUSHI



社会福祉法人 ひと は 福 社 会
〒739-1203
広島県安芸高田市向原町長田1857番地
TEL(0826)46-2960 FAX(0826)46-4355

初めてひとには検査車が来て、健康診断をうけることになりました。

いつもなら病院の受診をスムーズにこなすきならも、初めての環境に戸惑う人も多くみられました。

即席の診療所となったひとのは健診会場の入口で重くなくなったあるきらが思わず

「すず!」と声を発しました。ご指図を受けた「すず」こと鈴川さんは、数年前に成人部門

から児童部門に異動になった女性スタッフです。

彼は目が見えにくいこともあり声で「誰」かを認識します。応援に来ていた鈴川さんの

声を聴き、咄嗟に出たのが「すず」でした。離れた場所にいた鈴川さんは照れ臭さを

隠しきれない表情で彼のもとに駆け寄り、現同僚のスタッフも背中をさすり続けます。そし

て健診職員さんの声掛けもあり受診することができました。

健診後に責任者の方と話をする機会があり、「ものすごい数のスタッフの方がおられるん

ですね」と感想を言われました。そりゃあそうです。成人3事業所が対象の健康診断に部

門を超えて応援に駆けつけてくれたんですから。健診職員さんが

きららの手を取って段差を下りている姿も見られました。



イベントにしても旅行にしても、ひとには皆でやります。イベントを

するのが目的ではないからです。それをきっかけにつながることなのです。

きららの困ったを発端にした見事な連係プレーはその日いたるところで見られました。

(事務局 寺尾 真)

あたらしい
なかがまが
ふえました

~スタッフ~

名前 河野 愛子

所属 就労センター あっぷ

食べてみたい朝ごはんは?

行ったことがない海外の
おしゃれなカフェ、レストランの
朝ごはん

名前 田村 ミヨ子

所属 ひと は 長屋

食べてみたい朝ごはんは?

おいしいコーヒーとパンが
あれば 満足です

一 重慶 伸明 さんがひとをはを去られることになりました

「重慶さんと共に」

丸岡さんから草刈り機を任せられ、優しく扱う毎の収穫等々、自分のペースで丁寧

に作業をする重慶さん。棚作り、野菜の種まきも一緒にしましたね。他のきららの

仕事ぶりもいつも気にかけてくださいました。甘いものが大好きで、昼食後には

ミルクティーを飲み、タバコで一服。お気に入りのスタッフと話ができた時は、とても

ご機嫌でした。人と仲良くなるのが上手で、『向原に住み続けたい』の願いは

たくさんの方を動かす、その人柄に支えられ、可能な限り支援ができたのではと感じます。

重慶さんに出会い、共に過ごせたこと、うれしかったです! ひととは共に 40年間、あり

がとうございました! (ひと は 工房 岡崎 梓)

15年間向原町の市営住宅で生活を送ってきました。園部清道さんと真由美さんか

グループホームに入居されることに伴い、これまでお世話になった近所の方々に

挨拶をして回りました。

ひととはお菓子を渡しながらか、「これまで長い間お世話になり、ありがとうございます

ました。」と二人で挨拶をし、「寂しくなるねえ。」「グループホームでも元気で頑張り

んさいよ。」など温かいお言葉をかけていただきました。急な訪問にも関わら

ず、「気持ちだから。」と銭別をくださった方もおられました。

挨拶をして回りながら、「この家の人から野菜をもらうたり、良うしてもらうたんよ。」

など、地域の方々とエピソードを教えてもらい、地域の方々にたくさん支えていた

だきながら、二人の生活が成り立っていたんだなあと思えてきました。

今後はグループホームを拠点とし、新たな生活を送ってもらいたいと思います。

(相談支援事業所 岡崎 慎治)

「遊び、て大事!!」

ひ

今年度からグループ療育になった睦くん。自由遊びにやりたいと言ったことを一緒にやっていたが、だんだんと楽しめていないと感じるように…。保育所とも話をし、自由遊びの内容を見直して、机を斜面にしてたくさんビー玉を転がして遊ぶことにした。目を輝かせて「もう一回!」と嬉しそうな睦くん。

と

そして、グループの活動に入り、今まで全く見ていなかった絵本を指差しながら楽しんで見たり、活動中の発言が増えたりと大きな変化が!遊び一つでこんなに変わるのかと驚くとともに、これから一人ひとりを理解してこれから楽しめる遊びを見つけて提供していきたいと思った。

(ひあ・くらぶ 山崎 志歩)

は

「作業所新年会に参加しました!」

の

ご馳走を楽しみ人、会話を楽しむ人、特別な場所にワクワクする人、あちらこちらから笑い声が聞こえてきます。水田さんのスベラース(お笑い)…掛け合い有でみんなを巻き込むところはさすがスベラース。会場が温まったらカラオケタイム♪歌う人、踊る人、手拍子する人、気持ちのまんまの笑顔はこんなに美しいものかと。大きな声でカー杯♪ボヘミアン♪をうたい上げた住川さんの声は一瞬にしてみんなを魅了しました!川口さんの「ありがとう」、今まで味わったことのない心地良さのありがとうの言葉をもらい感動。特別な日でも、日常でも感動は溢れています。見過ごさないようしっかりとキャッチできるよう感性を磨き、豊かに過ごしていこうと思った一日でした。

(事務局 築城 暁子)

日

健康診断の一幕、中田沙登志さんの声を代弁してみました～

々

僕は病院が嫌い。目が少々見えにくい僕には、痛い針を腕に刺されるのは苦手。でも病院の先生なら僕のしんどさを理解してくれるかもしれないから、今日という日を待ちにしていた。健康診断会場に近づくと、皆の声が聞こえてきた。会場の様子は分からないけど、ヒリヒリした雰囲気、なんだか怖くなってきた。「採血するよ」と言われたけど、まだ心の準備ができてなくて座り込んだ。そんな

—ひとは40周年を前に—

私とひとはとの出会いは36年前、結婚して向原町に来た時。旦那から「紹介したい所がある」と言われ、当時戸島の民家でしていたひとは作業所にいった。そこには明るい笑顔と楽しい笑い声があったことを鮮明に覚えている。その時からひとはは私の心のよりどころになった。

ある日、文尚さんが「ふれあいの会 いうのをしよるけえ、あんた来んさい」と言った。よくわからないまま参加したら、小学生の末田さんや住川さん、奥田さんたちがお母さんと一緒に集まっていた。私は末田さんたちと遊び、お母さんたちは文尚さんや順子さんと学校や家の悩みを話していた。月に1回の「ふれあいの会」に私は毎回参加して、とにかく子どもたちと遊んでいたことを覚えている。

それから約10年後、向原町に3人の障がいを持つ子どもがいた。そのことを知った文尚さんは、「あんたが親の会を作るんで」と言った。私はその言葉に押されて3人のお母さんたちと「ホップ・ステップ・ジャンプ」を立ちあげた。その会は今もなおメンバーが入れ替わりながら、ずっとお母さんたちの心のよりどころとして活動を続けている。

時を経ても変わらないもの。それは人の思いだ。文尚さんの思いがここにも受け継がれている。

(升田 和世)

時、聞いたことのない女性スタッフ(病院の看護師)が声をかけてきた。「動かなくていいですよ。ここでしまししょう。」僕の手を抱えた手の力がふっと緩み「名前教えて」と言える余裕も出てきた。隣ですす(川)の声も聞こえた。「ビデオ撮って!」僕もすごく頑張ったし、周りの人は優しく応援してくれた。僕が望んでいたのはこんな感じ。

(共同ホーム 原田 圭介)

編集後記

青尾 順子

40年前のこと。注文して出てきた「クリーム」を前に「これか飲みにかいたんよ」とニヤリとして重広さん。さやかな彼らのねがいやいつずつ叶えられてゆくこと「作業所づくり」にと関係。日々向きあい居るきかけをくれた人。つぎやき日記もすばらしい。ひとは「ほじり」を作ってくれありがとう!